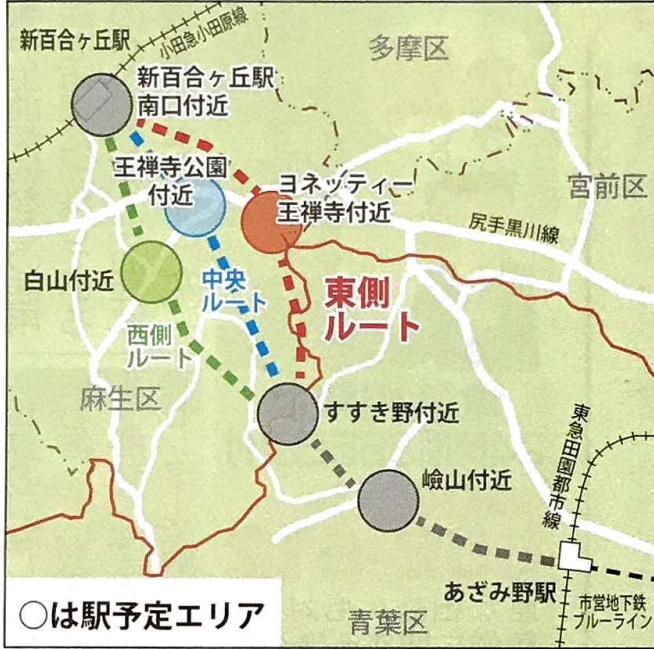


宮前区側ルートが有力

新百合ヶ丘まで延伸



概略ルート・駅位置イメージ

横浜市営地下鉄ブルーラインのあざみ野駅（青葉区）から新百合ヶ丘駅（麻生区）までの延伸について、横浜市は事業化を決定し、2030年の開業を目指すことを明らかにした。川崎市側のルートは3案が示されており、宮前区よりの「東側ルート」を有力としている。

延伸は1月23日に横浜市と川崎市が事業推進を合意。林文子・福田紀彦両市長が記者会見した。両市にまたがる延伸区間は6kmほど。すすき野付近から終点の新百合ヶ丘駅南口付近までのルートは3案。3案は新駅の場所が異なり、「西側ルート」は白山付近、「中央ルート」は王禅寺公園付近

「東側ルート」はヨネツブエー王禅寺付近を想定。両市によると、3案とも費用対効果や事業採算性が認められ、実現可能なルートだとしているが、より整備効果が高い「東側ルート」が有力と説明。川崎市は今後、市民への情報提供や意見を聞いた上で2019年度中に1案を選定する計画だ。

記者会見で福田市長は「メリットが高くなるよう検討を進めてきた。引き続き早期の事業着手に取り組みたい」と語った。

向丘地区選出の市議員・矢沢孝雄氏は「東側ルートは鉄道の駅が3駅しかない宮前区に大きなメリット。向丘地区から横浜方面に向かう場合、溝口経由から選択肢が広がる」と期待を寄せる。ルートや中間駅に関し

て宮前区の団体が3年前、区内を経由し聖マリアンナ医科大学付近など新駅

設置の検討を求めた請願を議会に提出し、昨年趣旨採択されていた。